実録
焼きヨーグルト事件

番外編

conamonn

はじめに

この本には

「実録　焼きヨーグルト事件」　本編

http://p.booklog.jp/book/99964

に、載せなかった文をまとめました。

パブー出版無料閲覧版

実録　焼きヨーグルト事件　本編　http://p.booklog.jp/book/99964

外伝　海外英文サイト編　http://p.booklog.jp/book/104958

突然の激しい非難コメント

２冊目に発行された焼きヨーグルトレシピ本の著者ホームページに、
レシピ投稿サイト運営側に事前報告しての出版か？と問うコメントを入れた翌朝早朝、
私が料理家二人にレシピアイディアを持って行かれた事を嘲る長いコメントが突然公開日記に入った。

配慮の無い立て続けのレシピ本出版にかなりな精神的にダメージを被っていたところ
更に弱り目に祟り目と言う状況に陥ってしまった。

これはタイミング的にも内容的にも、昨夜の書き込みを受けての著者本人の反応と思うしか無かった。

リアルタイムで、事情を知る者が色めき立った。
そう思って読んでも全く違和感が無いのだ。
見ると、この人はこのコメントを書くためにだけ
わざわざメンバー登録をしていた。

。。。。。。。。。。。。。。

あまりにも酷い内容だったため、
これが昨夜コメントを入れた先の料理家本人よるものであったなら
料理家と名乗る人達、またその世界はなんと恐ろしく
こういう行動に出るとは
あの人達は回りを蹴落とし蹴落としやっているのだろうか、
こんな種類の人たちを相手に私はもがいているのだろうか、と気が遠くなった。

あまりの内容にすぐ削除してしまったので
細部までは覚えていないが、

「ネットにレシピを上げる、という事は、
他から盗まれて当然なのをよく覚えておけ。
この焼きヨーグルトのレシピは一体何なんだ。
駄文と適量だらけで、こんな物はレシピとは言えない。
投稿サイトメンバーと仲良く楽しいお喋りがしたいだけなら、
とっとと他のSNSへでも行け！」

要するにレシピを持ち去られた私の方に非があるという様な内容の、
とにかくかなり長い文面だった。

私は公開日記にすぐ返信を書いた。

何故日記に書いたかと言うと、
第一弾のコメントは恐ろしくなって削除していた為相手が私の返信に気付く様な場所が無く
相手のキッチンにコメントを入れようにも、
登録したてのためコメント欄が全く無かったからである。

「貴方様は、私のレシピで本を出した方でしょうか？
もしそうでしたら、
こんなところに無記名でコメントするのでなく、言いたい事があるのでしたら
（昨晩記した）メールでお願い致します。
貴方は、私のレシピを駄文と適量だらけでこんな物はレシピとは言えない、と仰いましたが
この駄文と適量だらけのレシピを、プロが持っていくのです。」

。。。。。。。。。。

暫くして、また張本人からコメントが入った。

「私の前のコメントを消しましたね？
私の事を詮索している様ですが、私はあなたのレシピを盗んで行った著者ではありません。
３０代の主婦です。貴方のレシピは全て見させて頂きました。
このコメントも削除したら如何ですか？」

この様な挑発的な事が書いてあり、助っ人に来てくれていたメンバーへも敵意むき出しだった。

しかし、５００以上もあるレシピを
この短い間に「全て見させて頂きました。」と書くとは不気味な人である。
私はまだこの時点でも、これは著者サイドであってもおかしくない、と思っていた。

そしてコメントは続いた。

知り合いから焼きヨーグルトが美味しいと聞いて大元を検索してやってきたら
レシピの他に色々（商業利用された事）書いてあってがっかりした。

レシピ以外の文を載せるのはウンザリだ、
せっかくの料理が台無しで可哀想である、とあった。
そして、数年前はこの投稿サイトを利用していたが、
その頃は素人がプロのものをパクってばかりだった。
今はその逆になっている。
盗まれたくないなら、事前に転載禁止とでも書いておけ！！という内容の文面だった。
しかし個人のブログでもあるまいし、投稿レシピに転載禁止とはあまり書かない。
今から考えればサイト側に始末して貰えば良かったのに、
馬鹿な私はくそ真面目に返信コメントを長々と書いた。

「この駄文は、昨晩深夜（３時頃）愚痴を書いた物で
朝起きたら削除しようと思っていたのですが、
その間に貴方が見たものなのです。
ですので、これが長期間レシピに書かれていた訳ではなく
ほんの数時間の間です。
しかし、不快にさせたのであったら謝ります。」

すると、話は違う方に向かって行った。

「盗む方が悪いに決まっている。
しかし盗む人はいなくならない。
大昔からこういう問題はあったのだ。」
と色々歴史上過去の例を出し、博学な面を見せ始めた。

「実は今焼きヨーグルトを作っている。
塩水に漬け込むのに塩分濃度がレシピに書かれていないので分からない。適当にやると冒険だ。
そもそも塩水に漬け込むと言うのは、
浸透圧というものがあって。。。」
等という話になった。

実は、この塩分濃度に関しては、
私はこれ以上持っていかれるのが嫌だと思い投稿レシピには記載ぜす
自分の電子書籍の方にしか載せていない。
この人は、もっとレシピが盗まれない様防御しておけ
と口を酸っぱくして私に散々怒っておきながら、
防御の為記載しなかった塩分濃度に困りコメントを入れている
という皮肉な状況になってしまった。

塩分濃度はお教えしなかったが
そんな物は料理する人だったら勘で十分だ。
レシピ通りに
かっちり作らなければ気が済まないタイプの人だったのかもしれないが。

この人は、
「レシピが盗まれても盗まれても、
愚痴等こぼさず自分が考案者なら堂々としていればそれで良い。」
とも言った。
それは本当にその通りだ。

私はこの人がコメント欄から去った後、レシピに色々と書いてあった事を消し
皆様が見て不快にならぬ最低にとどめた。

。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

確かにレシピに愚痴ったのは私が悪かった。
なのでこの方には十分謝ったので
最後にはこの方も、
キツく言ってすみませんでした、と言ってくれた。

前の晩に著者の料理家の方にコメントを入れた直後だったので
このタイミングから
本当にこの人が焼きヨーグルトレシピという本の著者だと思い込んでしまった。

ネットの世界にはこの様に色々な人がいる。

出版本の著者を頼まれる料理家の方々にとって
ネット発レシピ、というのはこんな点においても扱いが難しく
厄介な面があるのかもしれない、と感じ入った。

。。。。。。。。。。。。。

これは「実録　焼きヨーグルト事件」を出版する際、載せなかった文です。

何故載せなかったかと言うと、
万が一にもレシピ本を出した著者が
有らぬ誤解を受けたり濡れ衣を着せられてはならないという配慮からでした。

しかし、ほんの少しの時間にしか見れなかったはずのこの方のコメントを
目撃していた方がレシピ投稿サイト内に何人かいた、という事を知りました。

そういう方は、ちゃんと
丁々発止のやりとり内容を把握して読んで下さっていた、という事がわかり、
この文章を出しても私の言わんとする事は理解して頂けるのではないか
と思ったのです。

「ネット発素人レシピ」という物が、

UP主にとっても

また出版社により依頼され
安易にその素人レシピで本を出す等という様な事をしてしまった料理家にとっても
「リスクを伴う物なのだ」と言いたかったのです。

プロバイダ責任制限法

Aテレビ局が放送した「亀卦川ふみ」という人物の情報は、
個人のサイトでは事情を話すとすぐ削除してくれた。
しかしまとめサイトというのは厄介な様である。
ほぼ１年経つとその記事自体が無くなってしまったところは良いのだが
記載されたままのところに連絡してみたところ、

「プロバイダ責任制限法」
（特定電気通信役務提供者の 損害賠償責任の制限及び発信者情報の開示に関する法律）に則り
対応する、と返信があった。

侵害情報の通知書 兼 送信防止措置依頼書という書類を詳しい記載で作成して提出、
それから印鑑証明書、運転免許証、住民基本台帳カード、住民票、 パスポート 等の
本人確認書類を２つ添付の事、とあった。

こんな事はやれる訳が無い。

テレビ局の誤った情報がまとめサイトに載ると、
それを消してもらうのは並大抵な事では無いと知った。

雑誌記事の出典言及を断られる

リンダミューズという本に焼きヨーグルトの特集があったので
見てみる事にした。

基本の作り方が、一晩水切り、１７０度３０分焼成、で
私のレシピと全く同じ記載であった。

私はリンダミューズに連絡し、ここの部分の出典は投稿サイトレシピであると
次号に書いて欲しい、と言った。

しかし、焼きヨーグルトレシピ本の編集者から、
これは本宣伝の為の記事なので
次号で訂正はできない、との回答をもらったのだった。

。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

メール内容

リンダミューズという雑誌にも本と同様の記事が載ってしまいました。
せめて次号に、「この焼きヨーグルトという料理は、投稿サイト発のレシピである。
それを著者が　掘り下げた」　等の訂正文を載せて頂きたく思います。

私の、ヨーグルトの量、水切り時間、オーブン温度、焼き時間　と
そっくりそのままです。

それから、記事に投稿サイト発レシピを載せる時は
運営側に連絡が必要です。

今後は　その様にお願い致 します。

。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

編集者からの返信

上記ご指摘の『リンダミューズ』の掲載の記事は、

宣伝目的を兼ねた広告記事である。
同誌編集部作成の記事ではないため、
訂正文等の記載はできかねる。

まど☆マギと被る気持ち

私はアニメのまど☆マギやサイコパスに非常に魅力を感じる。

どういうところが、と言うと、単純だ。
男性は出てこない訳ではないが、それは恋愛対象では無い。
サイコパスでは良き相棒という感じだし、
まど☆マギではストーリー自体にはほとんど関係が無い登場のみ。
昭和タイプの愛が成就して終わり、みたいな単純な漫画とは違い
どちらのアニメも
男性の力を借りずとも女性が精神的に強く独り立ちしている。
サイコパスでは男性はその力を支えてあげる様な存在である。

男性を否定する訳ではなく
恋愛対象と言うより心の深く通じあった仲間、という意識が新しい。
そして主人公は敵対するそのものが仕事上のボスであったり
又はその「本来の敵」の支配下に置かれる様な立場にありながら
悩み苦しむ故にその上を行くような精神を持つに至り、活躍を見せる。
こんな新しい種類のアニメが登場してくる時代の今の若者は
私の世代よりもっと違う生き方ができるのかもしれないと思ったりする。
ある日、私は情報交換している掲示板にこう書いた。

。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

「まど☆マギ　というアニメをご存知ですか？
その劇場版を大分前に見たのですが
最後に黒髪の「ほむら」という女の子が踊るのです。
それは、細かいストーリーは忘れてしまいましたが
もともと彼女は　ある生物に騙されて契約内容をよく把握せずに
スーパーな力を手に入れるのです。（生物には騙したという意識は全く無く、当然と思っている。）

しかし、それは魂をも売り渡す様な、
もう人としての体を取り戻せない規約でした。
（注※レシピ投稿サイトにも複雑、難解な「規約」というものがある。）

しかも彼女が戦いの為に発するパワーは、

契約を持ちかけてきた生物が自分たちのために
まるで発電所で作った電気の様に回収している事実も知るのです。
（こういう風な事も、素人レシピを収入の元としている投稿サイトと被る。）

人間としての一生が送れないと絶望した彼女は
事実を知った事により、 無垢で病弱だった少女が悟り
武器を駆使し、強く、どこか覚めた女性に変貌していく。

悟りは、もう自分の体は元に戻らないのだという事、
武器を駆使するのは、騙した生物や最終段階に変化した敵への対抗、
そして彼女と同じく他所で騙された女の子達を助ける為に。

どこか覚めた　というのは
どんなに力を蓄えようとも、騙した生物や大きな敵より
優位になる事は有り得ないという事を知りながら
それでも微々たる抵抗をし続けているため。

そして更に彼女は、
「自らの意志」で　今までより更に悪く進んだ段階へと
解っていながらヴァージョンアップしてしまう。

劇場版では、最後のシーンで月をバックにだったか、踊るのです。
もうもどれない、しかし彼女は最終形態まで變化してしまった。
仲間とも袂を分かつ形で。

踊りからは　絶望から来る諦めや悟り、強さ、一寸やり過ぎた感、
ここからはもう未来永劫抜け出せない感、
しかし何故か「自信」みたいな不気味さをも感じさせるのです。

それは騙した相手の生物さえも牛耳るまでになり
新たな運命と向き合う前触れでもあるのです。
これは、また完結していないのですが、

内容をよく把握できない契約、
そして悟って　強くなる、
しかし何もかも　もう元には戻れない、戻せない、
敵は倒せない大きな存在。

そんな諦めややり切れなさ、

しかし尚も対抗し続けるというところが

なんだか私の辿って来た事と被るのです。。

実録　焼きヨーグルト事件　本編　http://p.booklog.jp/book/99964　パブー出版無料閲覧版
外伝　海外英文サイト編　http://p.booklog.jp/book/104958

実録　焼きヨーグルト事件　番外編

http://p.booklog.jp/book/104858

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/104858

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ